



ワークショップ：日本のテフラ研究

—Active Tephra 2010 in Kyushuに向けて—

日本第四紀学会テフラ・火山研究委員会は、来年5月、南九州霧島市において火山灰編年・環境変動・火山活動・人間活動に関する国際野外集会およびワークショップ"Active Tephra 2010 in Kyushu"（詳細は<http://www.ris.ac.jp/intav-jp/index.html>）を開催します。表記のワークショップは、この国際野外集会にむけた日本国内におけるテフラ研究のレビューです。今回は、テフラ研究の根幹である「層序・編年」「テフラのキャラクタリゼーションと年代測定」「データベース」にテーマを絞り、日本のテフラ研究を展望します。

日時：2009年7月25日（土） 午前10:00～午後17:00

場所：首都大学東京 南大沢キャンパス 講堂

会場へのアクセスは<http://www.tmu.ac.jp/access.html>をご参考下さい。

参加費：無料（事前登録は必要ありません、直接会場においで下さい）

※ワークショップ開催中、ポスター展示を受けつけます。また、ポスターセッション・ショートサマリーの時間も設けます。テフラ研究に関するポスター展示にふるってお申し込み（申込先: suzukit@tmu.ac.jp）下さい。

司会：鈴木毅彦

10:00-10:05 シンポジウム趣旨説明 長岡信治(長崎大)

10:05-10:50 湖底堆積物コア試料による中期更新世から完新世広域テフラ層の層序と年代 長橋良隆(福島大)

10:50-11:35 中期中新世テフラの給原火山探索と広域対比の試み
一房総半島Kn-1凝灰岩と紀伊半島熊野酸性岩類および室生火砕流堆積物の例—
檀原 徹(京都フィッション・トラック)

11:35-12:00
ポスターセッション・ショートサマリー
昼食休憩／ポスターセッション・コアタイム

司会：長岡信治

13:00-13:45 テフラの対比技術の現状 福岡孝昭(立正大)

13:45-14:30 フィリピン共和国、ルソン島南東部のマヨン火山およびイロシンカルデラの噴火史研究
一放射性炭素年代と熱ルミネッセンス年代測定による試み— 奥野 充(福岡大)
休憩

司会：福岡孝昭

14:40-15:10 『J-Tephra』の現状と発展に向けた試み 平中宏典(新潟大)

15:10-15:40 わが国の降下火山灰データベース作成 須藤 茂(産総研)

15:40-16:10 GISを利用したテフラデータベース作成
鈴木毅彦(首都大)・小荒井衛(国土地理院)・中山大地(首都大)

16:10-17:00 総合討論

世話人：長岡信治・鈴木毅彦

問い合わせ先：鈴木毅彦 首都大学東京 都市環境学部地理学教室

TEL:042-677-2590 FAX:042-677-2589 e-mail:suzukit@tmu.ac.jp